

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸美容学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	生体観察		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	4校舎実習室
担 当 教 員	向井、奥谷、大西、本多、桑原、奈良、溝上	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>鍼灸師・美容鍼灸師として必要な身体指標について視診・触診ができる。 目標行動:学習した視診指標を指し示すことができ、触診指標について全て触れることができる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>平常評価30%、期末試験70%⇒合格基準:両方の得点の合算にて60%以上の取得率となった者。 ※平常評価は一定の範囲ごとに行い、学習した全ての範囲から出題する。 評価条件:何も見ずにランダムで出題される視診・触診指標を適切に観察できる、解答できる。</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>配布プリント 参考図書:骨・関節・靭帯・神経・血管の触診術の基本、筋と骨格の触診術の基本</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>●授業があった日に授業内容を振り返る⇒翌日の朝に授業内容を振り返る ○配布資料を複数回読む ○他者に学習した内容を伝える</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>生体観察は身体観察の基本となる骨・筋指標を中心に視診・触診技術を見に付けていきます。解剖学Ⅰの復習を行いながら、きっちりとした視診・触診ができるよう主体的に実技に臨んでください。また、この技術の習得により、経絡経穴の取穴がスムーズにできるようになります。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 授業を 通じての 到達目標	この授業が何を学習するか説明できる。 本時で学習する実技内容について、適切に行うことができる。		プリント	解剖学Ⅰの復習をしておく	
	各コマに おける 授業予定	授業のねらいと内容について 主要な骨格指標の触知				
第2回	講義 授業を 通じての 到達目標	本時で学習する実技内容について、適切に行うことができる。		プリント	前回の骨格指標の触知の復習をしておく	
	各コマに おける 授業予定	上肢の指標の触知①				
第3回	講義 授業を 通じての 到達目標	本時で学習する実技内容について、適切に行うことができる。		プリント	前回までの触知の内容を復習しておく	
	各コマに おける 授業予定	上肢の指標の触知②				
第4回	講義 授業を 通じての 到達目標	上肢の指標の触知を適切に行うことができる。		プリント	前回までの触知の内容を復習しておく	
	各コマに おける 授業予定	上肢の指標の触知の復習と平常評価				
第5回	講義 授業を 通じての 到達目標	本時で学習する実技内容について、適切に行うことができる。		プリント	前回までの触知の内容を復習しておく	
	各コマに おける 授業予定	体幹の指標の触知①				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	本時で学習する実技内容について、適切に行うことができる。	プリント	前回までの触知の内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	体幹の指標の触知②		
第7回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	上肢・体幹の指標の触知を適切に行うことができる。	プリント	前回までの触知の内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	これまでの内容の復習と平常評価		
第8回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	本時で学習する実技内容について、適切に行うことができる。	プリント	前回までの触知の内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	下肢の指標の触知①		
第9回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	本時で学習する実技内容について、適切に行うことができる。	プリント	前回までの触知の内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	下肢の指標の触知②		
第10回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	上肢・体幹・下肢の指標の触知を適切に行うことができる。	プリント	前回までの触知の内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	これまでの内容の復習と平常評価		
第11回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	本時で学習する実技内容について、適切に行うことができる。	プリント	前回までの触知の内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	頭蓋・顔面の指標の触知①		
第12回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	本時で学習する実技内容について、適切に行うことができる。	プリント	前回までの触知の内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	頭蓋・顔面の指標の触知②		
第13回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	上肢・体幹・下肢・頭蓋・顔面の指標の触知を適切に行うことができる。	プリント	前回までの触知の内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	これまでの内容の復習と平常評価		
第14回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	これまでの指標の触知を適切に行うことができる。	プリント	前回までの触知の内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	総合練習		
第15回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	これまでの指標の触知を適切に行うことができる。	プリント	これまでの内容の触知を適切に行えるよう復習しておく
		各コマにおける授業予定	総合確認、まとめ		